

福祉ボランティア活動実践校事業及び
地域ぐるみボランティア活動推進事業

平成30年度

活動集



ふれあいネットワーク



社会福祉
法人

甲府市社会福祉協議会

甲府市ボランティアセンター

はじめに

現在、少子高齢化や人口減少等、人口構造の変化が進む中で、地域においては、住民相互のつながりの希薄化、高齢者の社会的な孤立等、高齢者、障がい者、子育て世帯をはじめ、地域住民が抱える生活課題・福祉課題は益々複雑・多様化し、現状の社会福祉制度ではその解決は容易でない状況となっています。

これら課題の克服に向け、地域住民をはじめ地区社会福祉協議会等の各種団体や行政等が連携・協働し、地域福祉を推進する取組が尚一層求められています。

こうした取組の重要性が指摘される中、平成30年度も引き続き、甲府市社会福祉協議会では、限られた資源を地域の人々が上手に共有し、地域を暮らしやすく変えていくため、「地域ぐるみボランティア活動推進事業」に取り組みました。また、地域の様々な主体が協力し、次世代を担う子供たちが豊かな人間性や社会性を育み、社会的自立と自己実現を図ることを目的に、市立の小・中・高等学校を対象とした「福祉ボランティア活動実践校事業」にも取り組んだところです。

この度、平成30年度の「地域ぐるみボランティア活動推進事業」及び「福祉ボランティア活動実践校事業」の取組におけるこれらの事業の成果を取りまとめ、活動集として作成いたしましたので、ご活用いただければ幸いです。

結びに、この事業推進のために、ご尽力をいただきました関係各位に心からお礼を申し上げますとともに、当協議会に対しまして、さらなるご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年6月

社会福祉法人甲府市社会福祉協議会
会 長 山 田 文 夫



目 次

福祉ボランティア活動実践校事業実施要領	1
福祉ボランティア活動実践校一覧	3

【平成30年度福祉ボランティア活動実践校】

①甲府市立善誘館小学校	4
②甲府市立山城小学校	5
③甲府市立大國小学校	6
④甲府市立千代田小学校	7
⑤甲府市立新紺屋小学校	8
⑥甲府市立北東中学校	9
⑦甲府市立北西中学校	10
⑧甲府市立城南中学校	11
⑨甲府市立甲府商業高等学校	12
⑩甲府市立大里小学校	13
⑪甲府市立甲運小学校	14
⑫甲府市立新田小学校	15

地域ぐるみボランティア活動推進事業実施要領	16
-----------------------------	----

【地域ぐるみボランティア活動推進事業】

新紺屋地区社会福祉協議会	17
千塚地区社会福祉協議会	22

甲府市ボランティアセンターの紹介	24
甲府市ボランティアセンター事業の紹介	26
福祉講話講師の紹介	27
高齢者疑似体験セットの紹介	28

甲府市社会福祉協議会 福祉ボランティア活動実践校事業 実 施 要 領

第1条 目的

この要領は、社会福祉法人甲府市社会福祉協議会（以下「協議会」という。）が、児童・生徒の社会福祉への関心と理解を高め、ボランティア精神を養うとともに、家庭や地域に開かれた福祉教育と地域に根差したボランティア活動の実践を図ることを目的とする。

第2条 実施主体

社会福祉法人甲府市社会福祉協議会とする。

第3条 実施の期間

平成30年度から3年間とする。

第4条 ボランティア活動実践校の指定

実践校の指定は、甲府市立の小・中学校及び高等学校の中から、協議会が指定した学校（以下「実践校」という。）とし、事業期間中一の年度において協議会が学校を指定する。

第5条 協議会の役割

次の各号を行うものとする。

- （1）事業の説明会及び実践校相互の連絡調整や情報交換を図るための連絡会議の開催
- （2）実践校の指定
- （3）助成金の交付
- （4）福祉教育に関する相談
- （5）福祉講話の講師の紹介
- （6）職員及びボランティア等の派遣
- （7）福祉体験器材の貸出
- （8）事業推進に必要な資料及び情報の提供
- （9）その他

第6条 実践校の活動

実践校は、それぞれの学校と地域の実情にあわせ、次の各号に定める活動を行う。

- （1）広報・啓発活動
 - ・福祉講演会及び展示会等の開催
 - ・福祉・ボランティア活動PR紙等の発行
- （2）調査・研究・学習活動
 - ・車いす及び高齢者の体験
 - ・手話、点訳、音声訳及び要約筆記等の学習
 - ・福祉関係及びボランティア関係等の図書、資料整備

- (3) 体験学習を目的とした実践活動
 - ・ 社会福祉施設等への訪問による入所者との交流や介護等の体験活動
 - ・ 体育祭、文化祭等の学校行事への高齢者、障がい児（者）等の招待
- (4) 社会福祉事業への参加・協力
 - ・ 近隣地域において各種のボランティア活動
 - ・ 共同募金への協力
 - ・ 古切手、牛乳パック及びエコキャップ等の収集
- (5) 協議会の実施する事業への参加
 - ・ ふれあい交流フェスタ並びに養成講座及び研修会などへの参加
- (6) その他社会福祉に関する活動

第7条 助成金

実践校への助成金は、第6条に定める活動に必要な諸謝金、旅費交通費（講師の移動に係る経費）、消耗品費、印刷製本費及び協議会が必要と認めた経費とする。

2 助成金は、協議会の予算の範囲内で、1校につき4万円を上限に必要な経費を助成する。

第8条 助成金の申請

助成を受ける実践校は、次の書類を協議会会長に提出する。

- (1) 福祉ボランティア活動実践校事業助成金申請書（第1号様式）
- (2) 福祉ボランティア活動実践校事業事業計画・予算書（第2号様式）

第9条 実績の報告

実践校は、事業年度終了後20日以内に、次の書類を協議会会長に提出しなければならない。

- (1) 福祉ボランティア活動実践校事業実績報告書（第3号様式）
- (2) 福祉ボランティア活動実践校事業取り組み内容（第4号様式）
- (3) 福祉ボランティア活動実践校事業収支決算書（第5号様式）
- (4) 事業に関わる領収書（写し可）

第10条 その他

この要領に定めるもののほか、必要な事項についてはその都度協議して定めるものとする。

附 則

この要領は、平成24年4月1日から施行する。

この要領は、平成26年4月1日から施行する。

この要領は、平成27年4月1日から施行する。

この要領は、平成30年4月1日から施行する。

福祉ボランティア活動実践校事業 指定校

【平成30年度～令和2年度実施】

No.	学 校 名	指 定 年 度		
		平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
1	善 誘 館 小 学 校	○		
2	山 城 小 学 校	○		
3	大 国 小 学 校	○		
4	千 代 田 小 学 校	○		
5	新 紺 屋 小 学 校	○		
6	北 東 中 学 校	○		
7	北 西 中 学 校	○		
8	城 南 中 学 校	○		
9	甲府商業高等学校	○		
10	大 里 小 学 校	○		
11	甲 運 小 学 校	○		
12	新 田 小 学 校	○		
1	池 田 小 学 校		○	
2	石 田 小 学 校		○	
3	湯 田 小 学 校		○	
4	伊 勢 小 学 校		○	
5	国 母 小 学 校		○	
6	東 小 学 校		○	
7	相 川 小 学 校		○	
8	千 塚 小 学 校		○	
9	東 中 学 校		○	
10	南 中 学 校		○	
11	里 垣 小 学 校		○	
12	玉 諸 小 学 校		○	
1	貢 川 小 学 校			○
2	中 道 南 小 学 校			○
3	中 道 北 小 学 校			○
4	北 新 小 学 校			○
5	羽 黒 小 学 校			○
6	舞 鶴 小 学 校			○
7	朝 日 小 学 校			○
8	西 中 学 校			○
9	富 竹 中 学 校			○
10	南 西 中 学 校			○
11	笛 南 中 学 校			○
12	上 条 中 学 校			○
13	北 中 学 校			○
合 計		12	12	13

1 甲府市立善誘館小学校

1 主要行事

年月日	行 事 名	年月日	行 事 名
通年	・あいさつ運動 ・ベルマーク収集 ・愛校・愛町作業（ふれあい公園清掃） ・給食の牛乳パックリサイクル ・ボランティアによる朝の読み聞かせ	8.22	PTA 親子奉仕作業
H30.5.2	児童会による城東病院・城東交番への花 いっぱい活動訪問（バラの花かごプレゼ ント）	9. 3	高齢者への手紙
6.21	福祉講話	9.29	運動会に城東病院・地域の方を招待
6.30	4年生による城東病院訪問と交流 （総合的な学習）	11.30	1年生と高齢者との交流（昔あそびの会）
		12.17	歳末助け合い運動への参加 書き損じはがき収集活動

2 取り組み事例

本校では、福祉教育の目標を「福祉への理解と関心を深めるとともに、他者を思いやる心の育成を図る」として、道徳や学級活動、生活科、総合的な学習を通して福祉教育に取り組んできました。

(1) バラの花かごプレゼント

5月になると本校のバラ園に色鮮やかなバラが咲き始めます。そこで、児童会や栽培委員会を中心に、バラをアレンジして花かごを作り、城東病院や城東派出所に届けています。この活動は長く続けているので病院の方も派出所の方も楽しみにしてくださっています。相手の方の喜ぶ顔を見て、児童も他者を思いやる心を持つことができました。



(2) 福祉講話

様々な方と出会い、その生き方や考えに触れ、自分自身の生活や生き方を見つめ直す機会にするため、例年6月に福祉集会を行っています。

今年は「甲州ろうあ太鼓」のメンバー4名による太鼓演奏と、講話を聴きました。迫力のある演奏と力強い決めポーズに「すごい。カッコいい。」と子供たちは感動していました。全く聞こえない方々が目で動きを合わせ、肌で響きを感じていると知り、音楽を楽しんだり人とコミュニケーションしたりする方法は、「色々工夫できる」とわかりました。手話の講習や口話読み取りクイズなども楽しむ中で、聴覚障害のある方への理解や共感が深まりました。



3 一年間の評価と課題

今年度も地域の方々とのふれ合いと福祉集会を柱に福祉教育活動を展開しました。本校児童のために、大勢の安心パトロールの方々が登下校時に児童の見守りをしてくださったり、1年生の昔の遊びの授業にも入ってくださったりしています。また、城東病院や交番へ花を届けたり、読み聞かせを聴いたりすることで様々な方々とふれあい、思いやりの心も育ってきていると思います。

これからも継続して系統的に教育活動を行い、豊かな心を育てていきたいと考えます。

2 甲府市立山城小学校

1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
H30.7.3	高齢者施設訪問	H31.1月	書き損じはがき収集
11.6	高齢者施設訪問	1.15	花いっぱい運動
5～2月	マリ共和国支援米（5年）	1.24	福祉講話集会（6年）
12月	赤い羽根共同募金	3月	感謝清掃（6年）
12月	ペットボトルキャップ収集	通年	古切手集め

2 取り組み事例

（1）高齢者施設訪問

ボランティア委員会の高齢者施設訪問では、2つのグループに別れ、年2回の交流を毎年行っています。高齢者の方々に喜んでいただくために、児童は自主的に内容を考え、練習に取り組みました。また全校の児童に協力してもらい、絵や手紙を作成し、プレゼントとして手渡しました。

（2）マリ共和国支援米

地域の方々に協力して頂き、5月に田植えを行い、11月に収穫し、1月に支援米の発送式を行いました。道德等の授業や生活の中で食料や水不足の国について学び、困っている人を助ける大切さを深く考えました。また支援米を送るための米作りを、地域の方々から教えて頂き、日々の手入を助けて頂くことで、地域の方々に対して感謝の気持ちを持ちました。

（3）各種収集活動

例年行っている募金や書き損じはがき、使用済みテレホンカードについて、ボランティア委員会の児童が放送や各教室に行き、協力の呼びかけを行いました。昨年の児童総会で児童からペットボトルのキャップを集めて欲しいとの意見を取り上げ、ボランティア委員会が呼びかけ集めました。ペットボトルキャップはワクチンに変えることができることを知り、全校児童や地域の方々も協力してくださり、たくさん集めることができました。



3 一年間の評価と課題

今年度も児童会やボランティア委員会の取り組みにより、年間を通して福祉活動を行うことができました。福祉の行事を通して、身近な友達への優しさや高齢者への思いやり、他国への協力等の大切さを学びました。全校児童がそれぞれの行事に関わることで、人を助けることが他人事ではなく、自分のこととして考えることができました。また自分たちの活動を支えてくれる人がいることも、学びました。

3 甲府市立大国小学校

1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	あいさつ運動 ペットボトルキャップ・古切手収集 環境美化委員会によるふれあい花づくり	H30.10月 11.6 H31.3月	アイマスク体験・点字体験 福祉講話 老人ホーム訪問

2 取り組み事例

①あいさつ運動

児童会と各学年で担当を決めて登校時に元気な挨拶ができるようあいさつ運動に取り組みました。また地域や保護者の方も校門でのあいさつ運動に参加していただきました。



②福祉講話

11月6日に1～4年生を対象に福井しあわせ元気大会（2018年全国障がい者スポーツ大会）に水泳で参加された小池早由里様をお迎えして福祉講話を行いました。障がいに負けない意志の強さや周りの人たちへの感謝や思いやり、努力することの大切さなどを教えていただきました。子どもたちの意識が変わっていくことにつながっていききました。

3 一年間の評価と課題

児童会を中心に様々なボランティア活動に取り組むことができました。また、福祉講話や福祉体験活動を通して、地域の方々や高齢者、障がいを持つ方などとの交流が図れました。これらの活動を通して、「福祉のこころ」が深まってきていますが、今後も教科、道徳だけでなく、日常活動の中でも福祉教育をすすめていきたいと思っています。

4 甲府市立千代田小学校

1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	朝のあいさつ運動（児童会）、花壇の花植え替え（飼育栽培委員会全校）、給食の牛乳パックリサイクル（全校）、ペットボトルキャップ回収、古切手、書き損じはがきの回収（児童会）	9.29	運動会へ千代田荘招待（雨天中止）
H30.5.22	千代田荘訪問（全校児童）	11.21	千代田荘との交流（5年）
6.20	千代田荘との交流（6年）	H31.2.8	千代田荘との交流（3.4年）
7.4	福祉講話（全校児童）		
7.10	愛町奉仕作業（全校児童）		

2 取り組み事例

（1）千代田荘との交流

本校では、長年にわたって地域に根ざしたボランティア活動を実践してきました。その第一に、地域にある社会福祉施設「千代田荘」との交流があげられます。5月の全校交流の後、主に総合的な学習や学級活動の時間を利用し、学年ごとに交流を深めてきました。各学年ともどのようにして利用者さんを理解し、互いに意義のある活動ができるか真剣に考え計画や準備を進めてきました。具体的には、6年生はEMぼかし作り、5年生は絵画教室、3.4年生は劇やゲームといった交流を行いました。また、千代田小学校のオータムフェスタ（文化祭）に利用者さんを招待し交流してきました。



（2）福祉講話

今年度は、千代田荘の岸本望さん（社会福祉士）をお迎えして福祉講話を行いました。利用者さんが、普段どんな活動をしているか知るよい機会になりました。今回は、利用者さんが製作した見事な絵画や陶芸の作品を実際見せて頂き、利用者さんの豊かな心と才能を実感することができました。「障害があってもみんなと同じ。できることがたくさんある。千代田小のみなさんは、六年間の交流を通して多くのことを学んでください。」と話しをしてくださいました。



3 一年間の評価と課題

今年度も年間を通じて計画的に福祉教育活動を行うことができました。地域にある「千代田荘との交流」も定着し、子供たちは自然な形で楽しく利用者さんと交流する様子が見られ成長を感じます。

また、今年度は福祉講話で千代田荘の職員の方の話を聞いたことも大変有意義な経験でした。

今後も「千代田荘との交流」を軸に、ねらいをしっかりとった充実した交流を通して、思いやりの心を育てていきたいと思います。

5 甲府市立新紺屋小学校

1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	・あいさつ運動 ・古切手収集	12月	・募金
		12.5	・聖ヨゼフ寮訪問（4年生）
		12.8	・親子もちつき大会
H30		H31.1月	・書き損じはがき収集
10.22	・福祉講話（1～4年生）		
11.10	・新紺屋まつり（児童会）		
11.23	・八幡神社の清掃活動		

2 取り組み事例

本校では、「かしこく、心豊かにたくましく生きる子どもの育成」の教育目標のもと道徳教育や福祉教育の充実に努めるとともに、地域に根ざした豊かな人間性を培う教育活動を推進することによって、「豊かな心」「思いやる心」の育成を図ってきました。

（1）あいさつ運動

校内では、あいさつ隊が各クラスを回って呼びかけるあいさつ運動を行いました。校門では、広く地域の方ともあいさつを通じて交流しようという考えのもと、登校した際に登校班毎に後からくる本校の児童にあいさつするだけでなく、通学通勤途中の方にあいさつの声かけを行っています。また、今年度も、北東中学校と連携し、本校の卒業生である中学生と一緒に校門でのあいさつ運動をすることもできました。



（2）福祉講話

1～4年生で福祉講話を実施しました。視覚障がい者の方と盲導犬をお迎えしました。

講師の方の普段の生活の様子や工夫などのお話を伺い、共に生きるためにできることは何かを考える良い機会となりました。



（3）新紺屋まつり

昔の遊びコーナーの講師として、毎年地域老人クラブの方をお招きし、けん玉、はねつき、わりばし鉄砲、こままわし、福笑いといった昔の遊びを教えてくださいました。

たてわり活動の一環で、それぞれのたてわり班が、子どもなりに工夫した遊びのコーナーを考え、全校で遊びながら交流を深めるのが趣旨ですが、老人クラブの方にいろいろな遊びを教えていただくことも子どもたちは大変楽しみにしていて、当日は楽しくふれあうことができました。

（4）聖ヨゼフ寮との交流

4年生の国語の学習、総合的な学習の一環で毎年行っています。学習したことをもとに、高齢者とどんな形で交流するか考え、計画しました。手作りプレゼントを渡したり、合唱を披露したりして楽しい時間を過ごすことができました。

3 一年間の評価と課題

地域の高齢者や様々な障がいを持った方々、聖ヨゼフ寮の入所者の方々などとの交流を通して、子どもたちはいろいろな角度から福祉ということについて考えることができました。事前学習での自分たちの思いが、当日の交流に生かされ、充実感を持つことができました。今後も体験的な活動を通して、子どもたちの心に感動を与え、豊かな心や共に生きる力を育む教育活動を継続していきたいと考えています。

6

甲府市立北東中学校

1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	北口清掃（1.2月を除く） ペットボトルキャップ・古切手・ベルマーク等収集	9.21	学園祭での視覚障がい者体験等
H30.6.2	親子クリーンアクション参加	10月	赤い羽根共同募金協力
9月・1月	書き損じはがき収集	10.23	きりのこ祭り参加
		11月	アフリカ救援米 募金協力
		11.23	地域清掃参加

2 取り組み事例

（1）北口清掃

福祉厚生委員が企画、運営し、ほぼ1ヶ月に1度の割合で、土曜日の朝6：30（冬季は7：00）から甲府駅周辺の清掃を行いました。北東中学校の伝統的なボランティア活動ですが、全生徒の約半数が参加しています。清掃範囲は、武田通り新紺屋小東の交差点から甲府駅南口周辺です。歴史公園南のせせらぎ水路の清掃は、購入したデッキブラシを使って清掃をしていて、清掃が終わると水路にきれいな水が流れるようになります。



（2）学園祭での視覚障がい者体験、点字体験

今年度は、学園祭の中で、白杖の意味やペットボトルキャップ収集から、ワクチン購入までの流れなどを展示しました。また、体験コーナーでは、アイマスクを着用し、白杖をついて設定したコースを歩く視覚障がい者体験や、購入した点字セットを用い、点字体験を行いました。展示と体験の相乗効果により、障がい者に対する理解がより深まったように思います。



3 一年間の評価と課題

北口清掃も一助となり、甲府駅周辺はごみが少なく、観光客にも喜ばれていると北口町作り委員会の人からも評価されています。福祉に関わる活動は、どんな人も大切にするという心を育てる意味からも、大変価値のある活動ですが、それだけにその内容はだんだんと増えてきています。生徒たちに多くのボランティア機会を与えたいと思う反面、どこまで学校が関与していくべきなのかを考えていかなければならない時期かもしれません。

7 甲府市立北西中学校

1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	ペットボトルキャップ収集	10月	赤い羽根共同募金
5月	ユニセフ募金		歳末助け合い募金
6月	古切手・書き損じはがき収集		古切手・書き損じはがき収集
7月	特別養護老人ホーム 「志麻の郷」訪問①	12月	特別養護老人ホーム 「志麻の郷」訪問③
8月	特別養護老人ホーム 「志麻の郷」訪問②	H31.1月	古切手・書き損じはがき収集

2 取り組み事例

特別養護老人ホーム「志麻の郷」に本年度は年間で3回訪問しました。ふれあい委員を通じて全校に呼びかけ、参加者を募りました。活動内容は、ちぎり絵や風船バレー、吹奏楽部によるミニコンサート、絵本の読み聞かせ、プレゼント贈呈などでした。生徒達は活動を通して、高齢者との関わり方を知り、楽しみながら活動に参加しました。



3 一年間の評価と課題

今年度は、ペットボトルキャップ収集に力を入れて活動を行いました。少しでも多くのワクチンを購入するためにと、呼びかけを継続し、昨年度を大きく上回る量を回収しました。全校でボランティア活動に取り組む雰囲気をつくることのできたのではないかと感じています。

8 甲府市立城南中学校

1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
H30.7.23 ～ 10.3 12月	特別養護老人ホーム 「快晴苑」訪問（全5回） ふれあい集会（福祉講話） 歳末助け合い募金活動	12月 H31.1月	「快晴苑」訪問（クリスマスカード贈呈） 書き損じはがき収集

2 取り組み事例

本校では30年の長きに渡り、各クラスに講師をお一人ずつお招きしての「ふれあい集会（福祉講話）」を行っています。大きな目的は、障がいをもった方々との交流を通して、生徒が人とのふれあいについて考え、自分自身の生き方を見つめ直す機会をもつことにあります。またもう一つは、「ともに生き、ともに支え合う」社会の一員であることに気づき、自分にできることを積極的に行っていく態度を育成することにあります。障がいをもった方々との出会いを意図的に作ることで、生徒の内面を揺さぶり、ノーマライゼーションへの理解を



高め、実践へとつなげていきたいと考えています。

取組の特色は、単に「聴く」という受け身ではなく、準備段階から生徒が関わる双方向の講話を目指していることです。講師への挨拶や打ち合わせ、体験学習の指導や当日の運営とふれあい委員会の生徒が中心となって取り組む行事となっています。



3 一年間の評価と課題

3年間で大きな変容が見られる生徒はそう多くはありませんが、自ら学校外の活動に参加するようになった生徒やちょっとした勇気をもって行動できるようになった生徒など、小さな変容が見られる生徒が確実に出てきています。何事も続けていくことの大切さと同時に心を耕すことの難しさも感じています。

9 甲府市立甲府商業高等学校

1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
H30.7.4	あけぼの支援学校交流会		
11.9	落ち葉拾い 3年		
11.16	落ち葉拾い 2年		
11.22	落ち葉拾い 1年		

2 取り組み事例

7月4日に、本校インターアクト部があけぼの支援学校を訪問し、同校と日本航空高校も加えた交流会に参加した。6班に分かれお互いに名前を覚えたあと、ボッチャをしたり、みんなで一緒に歌を歌ったりして交流を深め、普段なかなか接することが少ない人たちと貴重な時間を過ごすことができた。



11月の3日間、各学年1回ずつ計3回にわたり、本校前の小瀬通りの落ち葉拾いを行った。ポプラ並木の落ち葉がとて多く、写真にあるように落ち葉を拾い集めた。美化活動に参加した生徒は、地域に貢献できたことを喜ぶとともに、日ごろから美化に努めようと気持ちを新たにした。

3 一年間の評価と課題

支援学校との交流は、本校インターアクト部が代表として行っている有意義な活動であるが、全校生徒が関われるものではないところが残念である。これに反して、落ち葉拾いは全校生徒が参加し、地域社会にも貢献できるこれも有意義な活動だ。今後も代表が行うものと全校生徒が行うものをバランスよく取り入れて活動を続けたい。これ以外にもボランティアボードを購入し、行事の告知等に使用している。

10 甲府市立大里小学校

1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	あいさつ運動 古切手・書き損じはがき・テレフォンカード回収	12月	赤い羽根共同募金
H30. 7月	「快晴苑」(福祉施設) 訪問	12月	福祉講話(5年)
9月	高齢者の方への手紙	H31. 1月	アイマスク・白杖体験

2 取り組み事例

(1) 福祉講話(5年生)

5年生の総合的な学習では「出会い、ふれあい、学び愛」の取り組みの中で、ボランティアセンターから紹介していただいた聴覚障がい者と手話通訳者の方をお招きして福祉講話を行いました。日常生活の様子や工夫などを話していただいたり、簡単な手話を教えていただいたりしました。すべての人が生活しやすい環境づくりのために様々な工夫がなされていること、自分たちにもできることがあることにも気づくことができました。



(2) 福祉委員会の活動

毎年、福祉委員会の児童が地域の福祉施設「快晴苑」を訪問し、高齢者と交流しています。今年度も一緒に歌を歌ったり、リコーダーの演奏を披露したり、ゲームをしたりするなど和やかな雰囲気の中でふれあいの時間をもつことができました。また、アイマスク・白杖体験をすることで目が見えない暗闇や怖さを知り、低い段差でも危険なことなどを実感することができました。障がい者の立場からだけでなく、介助者としての立場からも考えることができました。

3 一年間の評価と課題

今年度も、児童会や福祉委員会を中心に様々な福祉教育活動を行うことができました。障がいのある方や年寄りの話を聞き、ふれ合うことでその人間性や積極的に生きる姿にふれ、思いや願いに迫ることができました。

11 甲府市立甲運小学校

1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	あいさつ運動 ペットボトルキャップ収集	10.25	1 学年 特別支援学校との交流（地域の1年生）
H30.6 月	親子クリーンアクション	10.30	2 学年福祉講話「吉川さんと盲導犬」
9 月	「敬老の日」手紙	11.2	1 学年福祉講話「耳の不自由な人のお話を聞こう」
9 月	6 年生福祉施設訪問	11.13	3 学年福祉講話「小池さんと車いす」
10.11	5 学年福祉講話「聴覚障がい者とデフリンピック」	12 月	海外支援米収集
10.22	4 学年福祉講話「サウンドテーブルテニス」		

2 取り組み事例

（1）児童会活動

年間を通して、児童会を中心としたあいさつ運動や募金活動、委員会が中心となって行ったペットボトルキャップ収集などが定着してきました。3年生以上が昇降口に立ってあいさつ運動をすることで、低学年への意識が高まりました。募金や支援米収集も児童会や委員会の呼びかけにより参加する児童が増えました。



（2）福祉講話

今年度も1年生～5年生で福祉講話を行うことができました。各学年の講話の内容も定着し、手話・盲導犬・車いす・サウンドテーブルテニスと発達段階に合わせた内容の話を聞くことができました。障がい者の方からのお話で、生活の仕方やいろいろな場面での対し方など、様々な話を聞き、いろいろな工夫で自分たちと同じように生活していることを知ることができました。障がいについて理解を深める機会となりました。

3 一年間の評価と課題

毎年続けている福祉講話では、「体が不自由でなく普通に生活できることが幸せであること、毎日を精一杯生きてほしいこと、お家の方に感謝すること」など子どもたちに一生懸命伝えてくださり、よい経験ができました。子どもたちは、自分自身も含めた一人一人の命の大切さを実感できました。今後も継続していくことが大切と思われます。

児童会活動では、毎年継続的に活動が続けていることで、児童にとっても日常の活動となってきました。しかし、呼びかけを何度も行ったり、呼びかけたときは意識するが、あいさつのように個々の生活の中にまだ定着されていない部分も見られます。今後も活動が続けていくことの大切さを感じます。

12 甲府市立新田小学校

1 主要行事

年月日	行 事 名	年月日	行 事 名
H30.6.4 6.7 10.26 11.21	親子クリーンアクション 第1回甲府支援学校との交流会 福祉講話 第2回甲府支援学校との交流会	11.23 通年	池田公園の清掃 校庭の草取り、落ち葉拾い

2 取り組み事例

5年生が行った甲府支援学校との交流では、事前に支援学校から自己紹介カードと自己紹介ビデオをいただきました。子供達は、「どうしたら一緒に楽しく笑顔になれるか」を考えて、遊ぶ内容を決めました。手遊び、合奏、ダンス、ゲーム等様々な活動を行い、子供達は、協力の大切さや支援学校の友達が笑ってくれてうれしかったこと等を感想に書いていました。



福祉講話は、市内在住で鍼灸治療院を開いている吉川さんに来ていただき、3、4年生がお話を聞きました。これまでのご苦労や目の見えない生活や連れてきた盲導犬についてお話してくださいました。お礼の言葉を言い、最後に「起立。礼」と言うと盲導犬も一緒に立ち、子供達も驚いていました。

3 一年間の評価と課題

毎年5年生が行っている甲府支援学校との交流の他、今年は予算をいただいたことで、福祉講話を開くことができました。目の不自由な方のお話をうかがうことで、障がいを持っている方は特別自分たちと違うのではなく、障がいをかかえながらも、様々な工夫や努力をして楽しみを見つけて生活をしていることを知ることができました。

甲府市社会福祉協議会

地域ぐるみボランティア活動推進事業実施要領

第1 目 的

地域で共に安心して暮らし続けられる地域社会の再構築や子供たちを始めとする地域における「福祉のこころ」の醸成をするため、地区社会福祉協議会及び関係団体並びに学校が地域ぐるみで連携して進める福祉教育やまちづくりを推進することを目的とする。

第2 実施主体

社会福祉法人 甲府市社会福祉協議会（以下「協議会」という。）とする。

第3 推進主体

協議会が指定した地区社会福祉協議会（以下「地区社協」という。）とする。

第4 実施の期間

4月1日から翌年の3月31日までの一年度

第5 地区社協の指定

一年度につき2地区社協

第6 運営及び活動内容

- (1) 福祉教育推進委員会の設置及び運営
地区社協は、活動の母体となる福祉教育推進委員会を設置し運営する。
- (2) 福祉教育推進委員会は、地域の関係者や学校と連携して、地域の実情にあわせた福祉教育活動を企画・実施する。また、地区社協の実施する事業および学校行事への参加・協力を行う。

第7 助成金

地区社協への助成金は、第6に定める活動に必要な諸謝金、旅費交通費（講師の移動に係る経費）、消耗品費、印刷製本費及び協議会が必要と認めた経費とする。

- 2 助成金は、地区社協予算に計上し収支項目を明確にして会計処理を行う。
- 3 助成金は、協議会の予算の範囲内で、1地区につき10万円を上限に必要な経費を助成する。

第8 助成金の申請

助成をうける地区社協は、次の各号に定める様式を協議会に提出し、承認を受けなければならない。

- (1) 地域ぐるみボランティア活動推進事業助成金交付申請書（第1号様式）
- (2) 地域ぐるみボランティア活動推進事業事業計画書（第2号様式）
- (3) 地域ぐるみボランティア活動推進事業収支予算書（第3号様式）

第9 実績の報告

地区社協会長は、事業年度終了後20日以内に、次の各号に定める様式を協議会に提出しなければならない。

- (1) 地域ぐるみボランティア活動推進事業実績報告書（第4号様式）
- (2) 地域ぐるみボランティア活動推進事業事業報告書（第5号様式）
- (3) 地域ぐるみボランティア活動推進事業収支決算書（第6号様式）
- (4) 事業に関わる領収書（写し可）

第10 その他

この要領に定めるもののほか、必要な事項についてはその都度協議して定めるものとする。

附 則

この要領は、平成24年4月10日から施行する。
この要領は、平成27年4月1日から施行する。
この要領は、平成30年4月1日から施行する。

地域ぐるみボランティア活動推進事業 実績報告書

新紺屋地区社会福祉協議会

1 福祉教育推進委員会

委員構成	役 職	氏 名
	新紺屋地区自治会連合会会長	上野 昭夫
	新紺屋地区青少年育成協議会会長	望月 好訓
	新紺屋地区体育協会会長	大久保一雄
副 代 表	新紺屋地区民生委員・児童委員協議会会長	飯島 哲
	新紺屋地区民生委員・児童委員協議会	加藤 宏
	新紺屋地区民生委員・児童委員協議会	坂田 成子
	新紺屋地区文化協会会長	勝村 武
	新紺屋地区文化協会	久保田善子
	新紺屋地区文化協会	望月美枝子
	新紺屋地区老人クラブ連合会会長	白鳥 文之
	新紺屋地区老人クラブ連合会	長田 一枝
	新紺屋地区老人クラブ連合会	井上 幸江
副 代 表	新紺屋地区食生活改善推進委員会会長	内山由利子
	新紺屋地区北口まちづくり委員会会長	古屋 里義
	新紺屋地区母子寡婦福祉会会長	望月 敏子
	甲府市市議会議員	山田 厚
	甲府市教育委員	堀 とめほ
	新紺屋小学校PTA会長	丸山 綾子
	新紺屋小学校校長	大塚 克哉
	新紺屋小学校教頭	一瀬 孝仁
	新紺屋地区社会福祉協議会会長	長田 幸也
代 表	新紺屋地区社会福祉協議会事務局長	深澤 正己
	甲府市ボランティアセンター所長	阪本 俊美
	甲府市社会福祉協議会	岡 辰也
	委員構成 24名	
開催期日	内 容	
H30.4.18	取得するに当たっての市社協・地区社協・小学校で、どのように対応するか検討会を開催する。	
5.25	社協三役、教頭で年間学校行事のすり合わせ（計画・立案）をする。	
6.16	第1回福祉教育推進委員会（委員会発足、役員選出等） 地区各団体代表24名にて構成し代表深澤正己・副代表飯島哲、内山由利子氏を選出する、内容の確認と全員の承認を得る。	
6.18	役員会議（新紺屋小学校と年間の事業内容について打ち合わせを行い、今年度は新規の事業でなく既存の事業に協力することで合意をする）。	
10.13	第2回福祉教育推進委員会（上期事業報告及び下期事業計画打ち合わせ）	
11.20	役員会議（下期事業の協力体制及び人選について打ち合わせ）	
11.27	役員と各団体の協力者との打ち合わせ。	
H31.2.23	第3回福祉教育推進委員会（H30年度事業報告と新年度について）	

2 「生命の授業」

期 日	会 場	内 容
H30. 6.30	新紺屋小学校	《地域道徳公開授業》 1年生：「心のブレーキ」をテーマに、規則の尊重についての授業 担任教諭 吉田教諭 外部講師 依田與様 児童18名 保護者15名 依田與氏による腹話術で規則を守る重要性を交通安全のルールに置き換えてわかりやすく面白おかしく話をしていただき児童も保護者も喜んでいました。   2年生：講師の選出に手間取り例年通りの担任の先生による。 「いのちのつながり」をテーマに生命の尊さについての授業 担任教諭 伊藤教諭 児童28名 保護者25名 3年生：講師の選出に手間取り例年通りの担任の先生による。 「日ごろから大切なこと」をテーマに節度節制についての授業 担任教諭 三枝教諭 児童24名 保護者20名 4年生：「よりそう心」をテーマに親切・思いやりについての授業 担任教諭 篠原教諭 外部講師 加藤宏様（民生児童委員） 児童31名 保護者25名  5年生：「いじめについて考えようをテーマに生命の尊さ及び、公正・公平・社会主義についての授業 担任教諭 志村教諭 外部講師 八巻佐知子様（弁護士） 児童19名 保護者18名 現実の社会問題メディアでも多く取り沙汰されている「いじめ」の話で地域にはこれといって問題はないがどうしておこるのか、どうしたらなくなるのかを考えさせる内容でありました。  6年生：「精一杯生きる（甲府空襲の体験から）」をテーマに生命の尊さについての授業 担任教諭 名取教諭 外部講師 長田幸也様（地区社協会長） 児童25名 保護者18名 70余年前の話でびっくりするような状況の中戦争の恐ろしさを確認するとともにその悲惨さを感じながら現在の私たちの幸せな日々を実感させる授業でした。 

3 地域と学校が連携して行う活動

期 日	会 場	内 容
H30.9.21	オギノ朝日店	3年生（24名）：校外学習（店舗見学） オギノ朝日店を2班に分かれて、売り場とバックヤードの見学を実施。商品の管理・陳列の仕方等について勉強。また質問コーナーでは、商品がお店に並ぶまで径路について熱心に聞いていました。 担任教諭 三枝教諭 協力者 飯島哲様（民児協会会長） 深澤正己様（地区社協事務局長）  
11.15	朝日町通り商店街	2年生（28名）：校外学習（店舗見学） 朝日町通り商店街を3班に分かれての店舗見学で、花屋さん、時計屋さん、パン屋さん等のお店の店主から熱心に話を聞いていました。 担任教諭 伊藤教諭 協力者 勝村武（文化協会会長）望月美枝子様（文化協会）  
11.29	新紺屋小学校	6年生（25名）体験学習（ほうとうづくり） まず、郷土食「ほうとう」の由来を望月講師から学び、母親や保護者も協力し、野菜の洗浄・切断、小麦粉のこね方、のし棒の使い方、麺切り、煮込みを体験し、熱々のほうとうを皆で頂きました。（母親の参加10名） 担任教諭 名取教諭 協力者 望月好訓様（育成協会会長）、内山由利子様・清水鶴江様（食生活改善推進員） 
12.5	聖ヨゼフ寮	4年生（31名）：郊外学習（聖ヨゼフ寮訪問） 聖ヨゼフ寮においては、31名の児童がそれぞれの役割分担を行い、クイズ、ゲーム、歌、踊り等を披露し入寮者の皆様も子供たちと一緒にゲーム等を行い、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。 担任教諭 篠原教諭 協力者 秋山実様・雨宮きよ子様（民生児童委員）  

期 日	会 場	内 容
12.8	新紺屋小学校	親子餅つき大会 消えつつある日本の食文化とも言うべき餅つきを親子で体験する会を青少年育成推進協議会と社会福祉協議会共催で開催した。ついた餅はあんころ餅にしてその場で食し、また、独居老人や障がい者には地区の要望に応じて社会福祉協議会が見舞った（届けた）。併せて、同会場で子ども達による歳末助け合い募金もおこなわれ関係機関に届けた。（20年ほど前から続いている行事）  
12.13	新紺屋小学校	5年生（18名）：体験学習「みそづくり」 担任教諭 志村教諭 講師 五味醤油 協力者 食生活改善推進員（清水鶴江様・小林律子様・井上幸江様・小原七穂子様） 五味醤油さんの指導と食生活改善推進員の協力をうけながら、児童と楽しくみそづくりをすることが出来ました。 
12.18	新紺屋小学校	1年生（18名）：体験学習「昔のあそび」 老人クラブの皆さんの協力をいただき、こままわし・竹とんぼ・ケン玉・あやとり・お手玉・折り紙等の遊びを体験してもらいました。古き時代の遊びに悪戦苦闘しながら一喜一憂する児童たちの姿が印象的でした。 担任教諭 吉田教諭 協力者 白鳥文之様（老人クラブ会長）他8名  
H31.3.12	新紺屋小学校	武田明神太鼓発表会 『郷土芸能にふれよう』と云うキャッチフレーズで武田明神太鼓連が新紺屋小学校に出向いたのは、平成25年の事でした。当時1年生だった生徒達が今年は卒業です。月日の速さを感じます。練習は月2回、放課後の1時間位なのでとても充分とは云えませんが無事発表会を開く事が出来ました。参加者数は、年により異なり5～6人位の時も20名を超えることもありました。今年度は20名の参加でしたが1年生6名、2年生6名、3年生5名と低学年が多く、最初はどうか事かと心配もしましたが、多くの児童や保護者や先生方の前で上手に演奏する事が出来ました。たくさんの拍手を受け無事終わることが出来ました。 協力者 武田明神太鼓連（大久保一雄会長・望月敏子副会長）  

4 1年間を振り返ってみて（成果及び課題等）

●成 果

地域と学校（子供たち）のふれあう良い機会ができました。小学校とのかかわりが、それぞれ単独で行事に参加していたようですが、この事業を取得したことにより「地域と学校」がより近いものになりました。また、学校が子供たちの決められた授業だけにとどまらず、如何に多く地域の事、社会の事を学ぶ努力をしているかを確認しました。子供たちと地域の「特に」高齢者は生きがいが見つかり元気に活躍の場が開けた思いです。

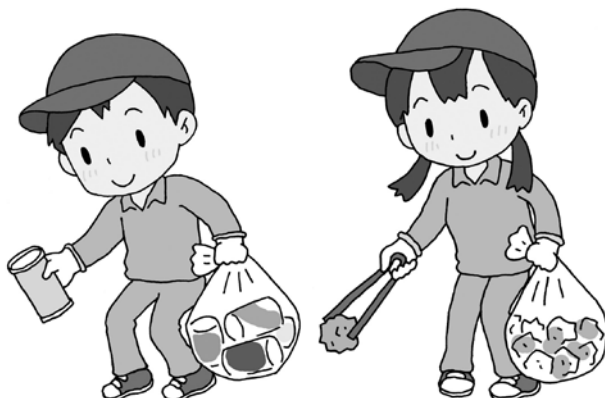
連携に新たに繋がりが芽生えたこと、お手伝いへのやりがい、生きがいを私たちも自覚することができ一歩も二歩も進めた気がします。

本年度この事業の取得を将来への一歩に継続させるための仕組み作りを検討する良い機会になりました。

●課 題

地域内住民の経験豊富な高齢者の知識と経験を活かし、楽しんでもできるボランティアのために情報収集「発掘・受け入れ」等のリストアップ。

社協自身の予算も年々減少気味にあり如何にして経費の捻出をするか考えていくと同時に、引き続き次年度の助成金を捻出して欲しいです。



千 塚 地 区 社 会 福 祉 協 議 会

1 福祉教育推進委員会

委員構成	役 職	氏 名
10名	千塚地区社会福祉協議会相談役	窪田 幸永
	千塚地区社会福祉協議会会長	小野 良吉
	千塚地区社会福祉協議会副会長	山寺 一三
	千塚地区社会福祉協議会副会長	安永 秀男
	千塚地区社会福祉協議会副会長	藤澤 恵子
	千塚地区社会福祉協議会事務局長	浅川 浩三
	千塚地区社会福祉協議会事務局次長	有泉 安雄
	ボランティア代表	岸本 千恵
	学識経験者	石原 孝徳
	千塚小学校校長	中国 昭彦
開催期日	内 容	
H30.4.1	年間行事計画の策定、年間計画に伴う予算の決定	
10.13	8月に実施した青少年育成推進協議会と千塚小児童による加牟那塚清掃及び9月に実施した千塚地区老人クラブと千塚小児童による昔の遊びなど二つの事業について、検討・評価を行った。	
H31.3.31	平成30年度実施した事業の評価を行うとともに、平成30年度決算の承認を行った。	

2 地域と学校が連携して行う活動

期 日	会 場	内 容
H30.8.20	加牟那塚	千塚小児童と千塚地区育成会が、加牟那塚の清掃を行った。
10.9	千塚小学校	千塚小6年生を対象に、地区ボランティアが千塚の歴史について講演を行った。
10.22	千塚公園	親子三世代を対象に、グラウンドゴルフ大会を行った。千塚小児童は、コースの整備、表彰式の進行を行うとともに、選手として協議に参加した。
11.11	千塚公園	「花いっぱい運動」として、千塚公園にビオラ400鉢を地区ボランティアと千塚小児童45人が植栽した。
H31.3.24	千塚市民会館	千塚こども元気まつり、親子ふれあい工作教室などをボランティアと実施し、千塚小の親子83人が参加した。

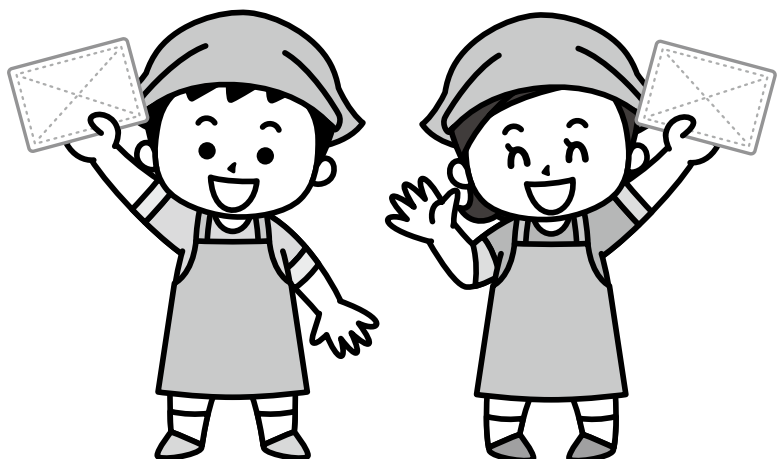


3 1年間を振り返ってみて（成果及び課題等）

千塚地区は、昔は農業が盛んで田んぼや畑が多くあり、居住している人も少なかったが昭和30年頃より宅地化が進み、転入世帯が増加してきた。貸家やアパートに居住する世帯も多くなり、自治会への未加入世帯も多い。また、高齢化率は甲府市の29.1%と比較し32.2%と高い地域で、平素福祉推進員、民生委員児童委員、自治会関係者や民間ボランティア団体と連携し、見守り活動などを実施している。

住み慣れた地域を誰もが安心して生活できるよう、千塚地区では「共助」を目標に掲げ、日々活動している。特にこれからの社会を担っていく児童・生徒の健全な発育と「共助」の大切さを目標に事業を計画し、千塚小学校、民間ボランティアの協力を得るなか多数の児童生徒・生徒の参加を得て事業の推進を図ることができた。今後も千塚小学校、民間ボランティアの協力を得るなか地区社協の目標である「共助」の実現に向け、更なる努力を続けていきたいと考えている。

終わりに、事業の実施に協力いただいた千塚小学校、民間ボランティア、指導をいただいた甲府市社会福祉協議会の関係者の皆様に感謝申し上げます。



● ● ● 甲府市ボランティアセンターの紹介 ● ● ●

甲府市ボランティアセンターとは

甲府市ボランティアセンターは、「ともに生き、ともに支えあうまちづくり」を目指し、広く市民にボランティア活動の実際を周知するとともに活動の拠点として、ボランティア活動に関する広報・啓発と情報の収集・提供などの推進事業を掲げ、基盤整備の充実を目指して、ボランティア活動への参加のきっかけづくり、また参加者の技術や知識・得意分野などを地域で生かせる仕組みづくりのお手伝いをしています。

運営の仕組み

甲府市ボランティアセンターは平成6年4月1日に甲府市により設置され、甲府市社会福祉協議会によって運営されています。

ボランティアについての相談・登録・紹介

「ボランティア活動をしたい人」、「ボランティアの協力を必要としている人」といった方々やグループ等からの相談を受け、コーディネートします。

活動の基盤づくりの援助

- ・ ボランティア・NPO団体への支援
- ・ 高齢者疑似体験学習の指導と機材の貸し出し
- ・ ボランティア活動機材の貸し出し
(車いす・白い杖・アイマスク・紙芝居・積木セットなど)
- ・ 小・中・高校の福祉教育学習への協力
- ・ ボランティアグループの会議や活動の場としてボランティアビューローの開放
- ・ ボランティア活動中の万一の事故に備えて保険への加入窓口

ボランティア活動の情報収集や情報の提供

- ・ボランティア情報紙「ボランティアニュース」の発行
- ・ボランティアボード及び新聞等でのボランティア情報の提供
- ・「ホームページ」や「Facebook」、「まごころ（こうふ社協だより）」での情報の提供
- ・「甲府市ホームページ」や「広報こうふ」でのボランティア情報の提供

ホームページアドレス：<http://www.kofu-syakyo.or.jp/>
甲府市社会福祉協議会のホームページよりアクセス願います。

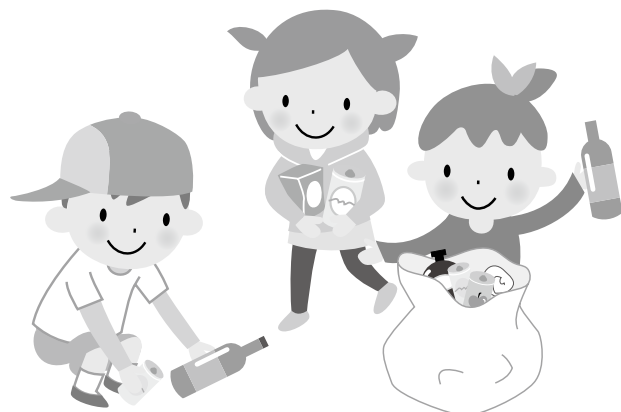
ボランティアセンターフェイスブック：<http://www.facebook.com/kofu.vc/>

育成・研修ボランティア講座の開催

- ・福祉への理解、知識を深めるための各種ボランティア講座の開設
（講座を修了された方々がグループを作る際のお手伝いもします）

古切手・牛乳パック・ペットボトルキャップ・不要入れ歯等の収集の窓口

取りまとめてそれぞれの引き取り手にお渡しします。



● ● ● 甲府市ボランティアセンター事業の紹介 ● ● ●

養成講座や研修会の開催



災害ボランティア学習会



ちょぼらキッズ養成講座



ボランティア入門講座

災害 VC 運営訓練



ふれあい交流フェスタ



ボランティアウィーク



市内大学交流ネットワーク連絡会議



ボランティアの情報発信



お問い合わせは、
甲府市ボランティアセンター
までお願いします。

TEL 055-223-1061
FAX 055-231-6061

福祉講話講師の紹介

次の方を講師として紹介しています。

- ◇肢体不自由者（車いす使用）…………… 歩行が困難な方の車いすでの生活実態
- ◇視覚障がい者（盲導犬同伴）…………… 目が不自由な方の生活実態と盲導犬の役割
- ◇聴覚障がい者（手話）…………… 耳が不自由な方の生活実態と、手話を用いての
コミュニケーション方法
- ◇環境教育支援団体…………… 環境について考える
- ◇災害・防災ボランティア団体…………… 被災地での支援、現状、災害防災についての日頃の備
えなどを学ぶ
- ◇ボランティア活動実践者…………… 障がいのある女の子と妹、その母親とのユニット等
(障がいを乗り越え、音楽を通してのボランティア活動)

☆講師の紹介については、
甲府市ボランティアセンターへご連絡ください。

TEL 055-223-1061

FAX 055-231-6061



高齢者の体と心を体験してみよう！！

(高齢者疑似体験セット)

目 的

1 高齢者の心を思いやる

高齢者疑似体験セットを付ける事によって、手足が上げにくかったり、屈伸ができなくなったりします。また、耳が遠くなり、目も白内障のためかすみ、見えにくくなります。そうした身体機能の低下を体感する事を通して、高齢者の心理状態を忖度し、高齢者を理解するための「福祉のこころ」の醸成を図ります。

2 介助者の役割を理解する

疑似体験セットを装着して体験してみると、介助される側、介助する側にも個人差があることに気が付きます。

このため、介助者は基本的には自立支援を目的とするので、体験者に必要以上に手を出さないことが大切であり、観察者は「体験者の様子はどうか」「介助の仕方は適切か」などをしっかりと観察し、体験後に助言すると共に体験時間の調整を図る必要があります。

このように、疑似体験では、高齢者や介助者の役割を通して、介助者がどのようにサポートするのが適切なのか、自分なりのノウハウを見つけるきっかけとします。

3 バリアフリーの必要性を学ぶ

高齢者疑似体験セットは、自分が高齢者になったときの心身の状況を体験するものです。重りをつけた手足を無理やり動かしても意味がありません。「高齢者になった」という自己暗示をかけて臨むことが大切です。

普段は何気なく歩いている段差などを、実際に疑似体験セットを装着して体験することで、その危険性を認識し、高齢者が日常生活を営む上でのバリアフリーの必要性を学ぶきっかけとします。



【高齢者疑似体験セット装着】



【高齢者疑似体験セット】

福祉ボランティア活動実践校事業及び
地域ぐるみボランティア活動推進事業活動集
(市社協指定実践校・指定地区社協)

— 平成30年度 —

令和元年6月 発行

社会福祉法人 甲府市社会福祉協議会
甲府市ボランティアセンター

〒400-0858 山梨県甲府市相生2-17-1
TEL 055-223-1061 FAX 055-231-6061
E-mail:k-vc@kofu-syakyo.or.jp

※この活動集は、赤い羽根共同募金分配金により作成しました。